

令和4年度日本カヌースプリント選手権大会 (令和4年9月7日~11日)



C-1 1000m
さとう ひかる
佐藤 光 2等陸曹

初優勝

3種目において

K-1 1000m
あおき みづき
青木 瑞樹 陸士長

K-2 500m
あおき みづき とみつか はるゆき
青木 瑞樹 陸士長 **冨塚 晴之** 陸士長

令和4年9月7日~11日に石川県小松市木場潟カヌー競技場において令和4年度日本カヌースプリント選手権大会が行われた。昨年度の日本選手権は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となり2年ぶりの開催となった。

自衛隊体育学校カヌー班からは、佐藤光2等陸曹以下4名が出場し、佐藤2曹、青木瑞樹陸士長、冨塚晴之陸士長がそれぞれの種目において初優勝の成果を取めた。



大会1日目にC-1 1000m(カナディアン1人乗り)種目予選に出場した佐藤2曹は、序盤から先頭に立ち他の選手を寄せ付けることなくゴール。最終的に2位以下に100m以上の差をつけ余裕を持って勝利し、早々と決勝進出を決めた。

翌日の決勝は、予選1位の3名と準決勝を勝ち上がった6名の選手で行われ、昨年の2020東京五輪代表の當

銘孝仁選手(アーネスト株式会社)や、この種目で2連覇している永沼峻選手(宮城県カヌー協会)などの実力者が揃った。佐藤2曹は第4レーンからスタート。選手は互いに牽制しあいながらほぼ横一線の状態に残り200mを迎え、佐藤2曹がラストスパート。ここで一気にトップとなり2位に約4秒の大差をつけ、4分3秒353でゴールし、自身初の日本選手権初優勝を手にした。

試合後、佐藤2曹は、「今シーズン1000mに力を入れて練習してきたので優勝できて嬉しい。今後は世界でも勝てるように努力していく。」と抱負を語った。



2024パリ五輪出場を目指す佐藤2曹



同じく大会1日目に、K-1 1000m(カヤック一人乗り)種目に出場した青木士長は、予選・準決勝共に、危なげなく1位で通過し決勝へ勝ち進んだ。迎えた決勝には9名が出場し、その中には2020東京五輪代表の水本圭治選手(チョープロ)や、この種目で前回優勝している棚田大志選手(医療法人興生会吉本整形外科・外科病院)などの実力者が順当

に勝ち上がってきた。ここで勝てばシニアの大会で初優勝と、パリ五輪にむけた大きな自信となる青木士長には最高の舞台ができた。試合は、500m中盤まで拮抗する展開。そこから各選手がラストスパートで勝負にでたが、長い距離を一定の力で漕ぎ続けることを得意とする青木士長は、その勢いを止めることなく他の選手を4秒以上突き放し、3分40秒476でゴールした。

試合後、青木士長は、「自分の思い描いていたレースプランで優勝することができて嬉しい。タイムも自己ベストに近いタイムが出せたので嬉しい。」と語った。



シニアで初優勝の青木士長



K-2 日本代表に 勝利

青木・冨塚ペア

大会 4 日目に K-2 500m (カヤック 2 人乗り) 種目予選が行われ、K-1 1000m で優勝した青木士長と冨塚士長が出場した。青木士長と冨塚士長は、今月 1 日～3 日にハンガリーで行われた U-23 世界選手権に日本代表で出場し、そのまま大会 2 日前現地に入りし疲れが残った状態でのエントリーとなったが、予選・準決勝を余裕を持って 1 位通過した。

迎えた決勝は、K-2 500m 種目の現日本代表で活躍している三浦伊織選手 (鹿児島県スポーツ協会)、井上暉央選手 (香川県カヌー協会) ペアとの対戦に多くの視線が集まった。第 5 レーンからスタートを切った青木・冨塚ペアは、息の合ったパドル操作で早々とスピードに乗せたが、第 3 レーンを進む現日本代表三浦・井上ペアもスタートから飛び出て 2 艇の勝負となった。互いにトップを譲らない状況だったが、ラスト 100m で三浦・井上ペアが青木・冨塚ペアのペースに付いていけず失速した。青木・冨塚ペアは持ち前のスピードをそのまま維持し、日本代表ペアに 2 秒以上の大差をつけ初優勝を飾り、K-2 種目での優勝は体育学校初の快挙である。

迎えた決勝は、K-2 500m 種目の現日本代表で活躍している三浦伊織選手 (鹿児島県スポーツ協会)、井上暉央選手 (香川県カヌー協会) ペアとの対戦に多くの視線が集まった。第 5 レーンからスタートを切った青木・冨塚ペアは、息の合ったパドル操作で早々とスピードに乗せたが、第 3 レーンを進む現日本代表三浦・井上ペアもスタートから飛び出て 2 艇の勝負となった。互いにトップを譲らない状況だったが、ラスト 100m で三浦・井上ペアが青木・冨塚ペアのペースに付いていけず失速した。青木・冨塚ペアは持ち前のスピードをそのまま維持し、日本代表ペアに 2 秒以上の大差をつけ初優勝を飾り、K-2 種目での優勝は体育学校初の快挙である。



現日本代表に勝利した青木・冨塚ペア

冨塚士長は「ペアの練習をずっとやってきて、成果がしっかり出せたので良かった。」と語った。

C-1 準優勝

500m 藪 2 曹

大会 4 日目、C-1 500m (カナディアン一人乗り) 種目予選に出場した藪碧透 2 等陸曹は、力強いパドルでスタートから抜け出し、他の選手に圧倒的な差をつけ予選を突破した。

翌日の決勝は、予選 1 位の 3 名と準決勝を勝ち上がった 6 名の選手で行われた。藪 2 曹は、

この種目 2 回連続 2 位で今大会初優勝を目指し挑んだ。

迎えた決勝、隣のレーンにはこの種目で 3 連覇している永沼峻選手 (宮城県カヌー協会)。スタートから 2 人の戦いとなった。レースが動いたのはラスト 100m、一瞬の隙に永沼選手がスパートをかけ、藪 2 曹は追いつけず 2 位となった。

試合後藪 2 曹は、「500m・200m で優勝できるように、今回の結果を元にこれからの練習に取り組んでいきたい。」抱負をと語った。

監督の石川浩二 2 等陸尉は「今大会、練習してきた内容がしっかり試合に出せた上に良いレース展開で勝ってくれた。特に、若手の二人が 9 月上旬の海外レースから引き続き出場し強行スケジュールの中、現役の日本代表を抑えて優勝してくれたことが嬉しい。」と喜びを言葉にした。

今後、カヌー班は 2024 パリ五輪への出場とメダル獲得実現のため、来年 3 月に香川県で行われる 2023 ナショナルチーム選考会を目標にさらなるレベルアップを目指す。



来年こそ優勝を誓う藪 2 曹

競技結果

階級	氏名	出身地	種目	1人乗り		2人乗り
				1000m	500m	200m
2等陸曹	佐藤 光	佐賀県	カナディアン	優勝		
2等陸曹	藪 碧透	北海道	カナディアン		2位	4位
陸士長	冨塚 晴之	和歌山県	カヤック			6位 優勝
陸士長	青木 瑞樹	福島県	カヤック	優勝	4位	優勝



今年度の日本選手権で大きな成果を残したカヌー一班

CANOE SPRINT
用語説明



カヤック：両漕ぎ
K-1：カヤック 1 人乗り
K-2：カヤック 2 人乗り



カナディアン：片漕ぎ
C-1：カヤック 1 人乗り

